

◆【全国発信記事】道南支部

中型イカ釣り漁船が日本海の大和堆に向け、函館から出港

第七十八寿々丸／幸雄丸／潮雄丸／松耀丸

安全操業と大漁を祈願する

本格的なスルメイカ漁のシーズンを迎え、日本海の大和堆の漁場に向け、中型イカ釣り漁船がそれぞれ函館港から出港した。6月6日には有限会社寿々丸漁業所属の第七十八寿々丸が出港し、6月11日には有限会社天海所属の幸雄丸、潮雄丸、松耀丸の3隻が乗組員の家族や関係者が見守る中、大和堆に向けて出港した。

第七十八寿々丸

6月6日、雲一つない青空のもと、第七十八寿々丸は安全操業と大漁祈願の神事を行い、大漁旗をたなびかせ、日本海へ向け出港した。

中型イカ釣り漁船を取り巻く環境は、近年の不漁に加え、IUU漁船による違法操業が横行し、今年も既に500隻以上の外国船がEEZ内で違法操業しているとの情報もあり、漁獲量の減少も心配されている。

安全操業と大漁祈願の神事を終えた第七十八寿々丸の菊地耕二漁労長は「今日は天候にも恵まれ、いい出漁日になった。息子も今回一緒に出漁することから、イカ釣りの魅力を伝えたい。海は厳しい職場でもあるが、魅力もある。今年こそは豊漁であってほしい」と親子船で臨む今期の出漁に期待を膨らませた。

幸雄丸、潮雄丸、松耀丸

6月11日、有限会社天海所属の幸雄丸、潮雄丸、松耀丸の3隻が乗組員の家族や関係者が見守る中、函館港から出港した。

潮雄丸の齋藤幸雄漁労長は「漁獲量は年々厳しさを増しているが安全操業を心がけ、大漁目指して頑張ってくる。組合には業界の灯が消えない活動に期待する」と語った。

幸雄丸の島森憲一漁労長は「昨年の大和堆では、外国籍船の違法操業により日本漁船がEEZ内から締め出されるという理不尽な対応を強いられた。政府には国民の生活と漁業を守る義務があるはずだ。組合には、我々の生活を守る活動に期待している」と語った。

そして出港する3隻を代表し島森漁労長が「たくさんのお見送りに感謝する。皆さまにおいしいイカを届けられるよう頑張ってくる。笑顔で函館に戻ってくるので、皆さんもコロナに負けず、頑張ってください」と操舵室より謝辞を述べると、船は取り舵いっぱいにて大きく左旋回し、手を振る家族に汽笛で応え、大和堆へ向け出漁した。

「海員だより」